

## はじめに

人はなぜそこに座るのか、着席位置が決まる過程にはどのような心理メカニズムが反映しているのか、座席行動からどのような心理を読み取ることができるのか。これが本研究のテーマである。

著者は、このテーマに学生時代から興味をもち、教職に就いて以来、座席行動の研究を続けてきた。その成果は、学位論文「座席行動に関する社会心理学的研究—教室空間における着席位置の意味—」となって結実し、その内容は科研費出版助成を受けて『教室空間における着席位置の意味』（風間書房）を出版することができた。

しかし学位論文においては、論旨の簡潔性と一貫性を優先したため、それまでの研究成果にはあまり触れることができず、座席行動全体を視野に入れた総括的なまとめには至らなかった。

本書は、これまでの研究成果を包括的に再構成し、座席行動全般にわたる課題を取り上げて、座席行動の背後にある心理メカニズムを究明しようとする試みである。

本書は10章からなり、以下のように構成されている。

第1章「座席行動研究の意義」では、座席行動を空間行動現象の一形態と位置づけ、座席行動に関連する概念を論じ、本研究で追究すべき研究課題を提起する。

第2章「教室の座席行動と学業成績」と第3章「教室の座席行動とパーソナリティ」では、教室の座席行動と心理特性要因との関係を実証的に検討し、そのメカニズムを論ずる。

第4章「座席位置への好悪感情」では、各座席位置が情緒的に価値づけられていることを明らかにし、その成果を発展させた第5章「教室空間の潜在的なゾーン構造」では、教室の座席行動空間の分割法として4ゾーン分割が有効であることを実証する。

第6章「個人空間の表出としての座席行動」と第7章「態度表出としての座席行動」は、スペーシングの概念を教室の座席行動に適用することの有効性を検証した研究であり、教室空間の4ゾーンの意味をさらに明らかにする。

第8章「教室外の座席行動」では、会議室や家庭の食卓といった社会的地位構造のある場における座席行動を検討する。

第9章「本研究の成果とその応用」では、本研究で明らかになった成果の意義を論じ、その成果の具体的な場面における応用を考察する。

第10章「座席行動の研究分野とその可能性」では、より一般的な立場から座席行動の規定要因と今後の研究分野の開拓可能性や研究知見の応用可能性を論じる。

本書が、座席行動に関心のある方々の研究心を刺激し、研究を進める上での何らかのヒントになれば幸いである。

## 座席行動の心理学

— 着席位置をめぐる心理メカニズムの解明 —

---

### 目 次

はじめに	i
図表タイトル一覧	x
第 1 章 座席行動研究の意義	1
第 1 節 問題	1
第 2 節 座席行動の位置づけ	2
1) 空間行動としての座席行動	2
2) 座席行動の独自性	4
3) なわばり行動	6
4) スペーシング行動	7
5) 空間行動の発達と座席行動の成立	9
6) スペーシング行動、なわばり行動、座席行動	16
第 3 節 研究対象としての座席行動	17
1) 座席行動の定義	17
2) 座席行動の特質としての限定性	17
3) 座席行動に関する先行研究	19
4) 対人距離・対面角度と座席位置	22
第 4 節 座席行動の諸相	24
1) 座席行動の場面	24
2) スペーシング行動としての座席行動	27
3) なわばり行動としての座席行動	28
4) 空間の序列化および細分化としての座席行動	29
5) 教室の座席行動の特質	29
第 5 節 本研究において取り組むべき課題	30
1) 教室の座席行動の関係要因	30
2) 教室の座席行動空間の潜在的構造	30
3) 教室の座席行動と個人空間の関係	31
4) 社会的地位関係のある場面での座席行動	31
要約	32

## 第2章 教室の座席行動と学業成績 ..... 34

## 第1節 座席行動の安定性と成績 34

1. 問題 34
2. 方法 35
  - 1) 調査の対象と時期 35
  - 2) 質問紙 35
  - 3) 教室の状況など 35
3. 結果 36
  - 1) 座席選択の一貫性 36
  - 2) 座席区画の選択率 37
  - 3) 座席位置と成績の関係 39
  - 4) 座席位置の変動性と成績 40
4. 考察 40

## 要約 42

## 第2節 学業成績や知能構造と着席位置 43

1. 問題 43
2. 方法 44
  - 1) 座席行動調査および教室の状況 44
  - 2) 知能検査および学業成績 46
3. 結果 46
  - 1) 座席選択分布 46
  - 2) 各指標と前後性 46
  - 3) 知能構造および知能成就構造の種類と前後性 47
  - 4) 重回帰分析 49
4. 考察 51
  - 1) 座席選択分布について 51
  - 2) 知能・成績・座席行動について 52
  - 3) 知能構造・知能成就構造・座席行動について 52
  - 4) 重回帰分析について 53

## 要約 53

### 第3章 教室の座席行動とパーソナリティ ..... 55

#### 第1節 着席位置と Y-G 性格検査 55

1. 問題 55
2. 方法 57
  - 1) 調査の対象と時期 57
  - 2) 座席行動調査 57
  - 3) 教室の状況 58
3. 結果 58
  - 1) 相関係数と有意性検定について 58
  - 2) 座席行動指標について 59
  - 3) 座席行動指標と性格特性の関連について 62
4. 考察 68
  - 1) 通常位置の分布特徴 68
  - 2) 座席位置に対する好悪感情 69
  - 3) 友人位置について 70
  - 4) 座席行動と性格特性について 71

#### 要約 72

#### 第2節 着席位置と不安・興味・価値 73

1. 不安尺度 73
  - 1) 方法 73
  - 2) 結果 74
  - 3) 考察 75
2. 興味尺度得点 75
  - 1) 方法 76
  - 2) 結果 76
  - 3) 考察 78
3. 対人関係価値尺度 78
  - 1) 方法 78
  - 2) 結果と考察 79
  - 3) 結語 80

## 第3節 着席位置の移動や着席時間と性格特性 80

## 1. 着席位置の移動 80

1) 方法 80

2) 結果 81

3) 考察 82

## 2. 着席時間 83

1) 方法 83

2) 結果 83

3) 考察 85

要約 85

## 第4章 座席位置への好悪感情 ..... 87

## 第1節 座席の選択とその理由 87

## 1. 問題 87

## 2. 方法 88

1) 調査の対象と時期 88

2) 座席行動調査 88

3) 教室の状況 91

## 3. 結果と考察 91

1) 選択理由項目への反応 91

2) 選択理由の因子分析 91

3) 座席位置と選択理由 93

要約 96

## 第2節 忌避された座席位置とその忌避理由 96

## 1. 問題 96

## 2. 方法 97

1) 調査の対象と時期 97

2) 座席行動調査 97

3) 教室の状況 98

## 3. 結果 98

1) 通常位置と忌避位置の選択分布	98
2) 忌避理由の分析	99
3) 忌避理由と忌避位置	102
4) 忌避位置と通常位置	105
4. 考察	106
1) 忌避位置の特徴について	106
2) 忌避理由の因子分析から座席位置の構造化へ	107
要約	108

## 第5章 教室空間の潜在的なゾーン構造 ..... 109

第1節 問題	109
第2節 方法	111
1) 学生と教室	111
2) 実際の着席位置	111
3) 座席好みテスト (seating preference test)	112
第3節 結果	112
1) 座席の好みスコア	112
2) 因子分析	114
3) 座席の好みと実際の着席行動	115
第4節 考察	117
1) 教室分割の原則	117
2) 不十分な指標	117
3) 4ゾーンおよび教室の座席空間の潜在的構造	117
4) 教室の分割の新しい説	118
5) 4ゾーン説の一般性と妥当性	118

## 第6章 個人空間の表出としての座席行動 ..... 120

第1節 問題	120
第2節 方法	123
1) 被験者、着席位置の記録および教室の状況	123



2)	着席位置の測定と群構成	124
3)	対人距離テストによる対人距離の測定	125
第3節 結果 126		
1)	対人距離スコア	126
2)	着席位置要因の主効果	126
3)	親和性要因の主効果	127
4)	着席位置要因と親和性要因の交互作用	127
第4節 考察 128		
1)	着席位置と対人距離の大きさ	128
2)	潜在的ゾーン構造による教室分割の有効性	130
3)	教室の4つの座席位置ゾーンとHallの対人距離の分類	131
4)	左右両端ゾーンの意味	132
5)	教室という座席行動空間の特殊性	134
6)	結論	135
要約 135		
第7章 態度表出としての座席行動 .....		137
第1節 問題 137		
第2節 方法 140		
1)	座席行動調査	140
2)	EPPS性格検査	141
第3節 結果 141		
1)	座席位置ゾーンへの指向性	141
2)	ゾーン指向性得点	142
3)	各群におけるゾーン指向性	142
4)	各群における社会的動機	143
5)	各群における友人数	144
6)	それぞれの場合のゾーンへの指向性	144
7)	座席移動の傾向性	145
8)	座席位置ゾーンへの固執性	146

## 第4節 考察 147

- 1) 作業仮説の検討 147
- 2) 教育心理学的アプローチによる説明とその限界 147
- 3) 社会心理学的アプローチによる説明とその限界 148
- 4) 包括的アプローチの必要性 149
- 5) 教師と授業への態度による4ゾーンの説明 150
- 6) スペーシングによる教室内的なわばり行動の説明 152
- 7) 態度としての座席行動 153

## 要約 154

## 第8章 教室外の座席行動…………… 155

## 第1節 会議室における座席行動 155

1. 会議室における座席位置への指向性 155
  - 1) 問題 155
  - 2) 方法 156
  - 3) 結果 156
  - 4) 考察 158
2. 社会的地位構造の認識とその文化慣習的表現としての座席行動

159

- 1) 問題 159
- 2) 方法 159
- 3) 結果 160
- 4) 考察 163

## 第2節 食卓における座席行動 165

1. 問題 165
2. 方法 167
  - 1) 対象 167
  - 2) 質問紙 167
  - 3) 食卓の形状と座席位置の読みとり 167
3. 結果 168

1) 回答者の家庭状況	168
2) 食卓の座席位置と着席比率	168
3) 家族成員の着席位置	170
4) 座席位置の決定度	176
5) 伝統的価値観・習慣の評定	177
4. 考察	181
1) 作業仮説の検討	181
2) 父母の着席位置と家庭内地位	182
3) 食卓は囲炉裏端ではなくなっている	182
4) 今日における食卓の着席位置の意味	183
<b>第9章 本研究の成果とその応用</b>	<b>184</b>
第1節 本研究の主な成果	184
1. 「着席位置」概念の意味の検討	184
2. 教室空間の4ゾーン構造	186
1) 4ゾーン構造の発見	186
2) 4ゾーン分割法の利点	187
3) 教室分割法の迷路から抜け出す	188
3. スペーシングとしての着席位置	189
1) 拡大したスペーシング概念	189
2) 2つの態度とスペーシング	189
3) スペーシングの対象としての教師	190
4. 4ゾーン構造とスペーシングの関係	191
5. 4ゾーンへの着席と教師への態度	193
6. 教室の座席行動の生起過程	195
第2節 本研究成果の応用	196
1. 研究成果の普遍性の検討	196
1) 教室場面	196
2) 集会室場面	200
3) 会議室場面	202

2. ゾーン内座席行動とクラスメイトへのスペーシング	204
3. 研究成果の利用	206
要約	208
<b>第10章 座席行動の研究分野とその可能性</b>	<b>210</b>
第1節 座席行動の規定要因	210
1) 外部環境	211
2) 内部処理過程	211
3) 入出力過程	212
4) 行動表出	212
第2節 座席行動研究の今後の課題	213
1) 基礎研究	213
2) 各論的研究	214
3) 応用研究	215
おわりに	216
引用文献・参考文献	217

## 図表タイトル一覧

### 第1章 座席行動研究の意義

図 1-1 コミュニケーション行動・非言語行動・空間行動・座席行動

図 1-2 ある会議室の見取り図

図 1-3 3つの世界を結びつける座席行動

表 1-1 三種の空間行動とその機能およびその成立に必要な認識能力

図 1-4 三種の空間行動の関係 (概念図)

図 1-5 矩形座席配置における座席位置と座席方向 (対面角度)

(→は視線の方向を示す)

図 1-6 座席行動の諸場面

### 第2章 教室の座席行動と学業成績

図 2-1 座席区画番号 (11 ~ 55) による座席位置の表示

表 2-1 A 科目における座席位置の一貫性

表 2-2 座席選択の科目内変動性と科目間変動性

図 2-2 A 科目における座席区画選択率 (%) と成績 ( $\bar{x}$ )

(○内数字は座席が「毎週必ず同じ」と答えた者の人数)

図 2-3 7科目全体での座席区画選択率 (%) と成績 ( $\bar{x}$ )

(○内数字は7科目間で座席位置に変動のない者の人数)

表 2-3 座席位置 (前後) と成績の相関およびその有意性の検定

表 2-4 A 科目における座席位置の変動性と成績

表 2-5 7科目間における座席位置の変動性と成績

図 2-4 教室の座席配置および各座席の選択率

(9回中に選択された割合, %)

図 2-5 各前後性ブロックにおける収束的思考力偏差値 (Cs)、発散的思考力偏差値 (Ds)、学業成績 (Aa) および成就指数 (AQ) の平均値

図 2-6 各前後性ブロックにおける知能構造4類型の分布比率 (%)

図 2-7 各前後性ブロックにおける知能成就構造4類型の分布比率 (%)

表 2-6 単相関係数行列 (右上) および偏相関行列 (左下)

表 2-7 回帰式および回帰係数の検定 (4変数の場合)

表 2-8 回帰式および回帰係数の検定 (2変数の場合)

### 第3章 教室の座席行動とパーソナリティ

図 3-1 座席区画番号 (11 ~ 77) による座席位置の表示および各区画への通常位置選択者数

表 3-1 座席行動指標相互の相関表

- 図 3-2 通常位置 (U)、希望位置 (P)、忌避位置 (A) の選択分布
- 図 3-3 左右列に投影した通常位置 (U)、希望位置 (P)、忌避位置 (A) の選択率
- 表 3-2 座席行動指導と性格因子・系統値の相関表
- 図 3-4 前後列・左右列に投影した性格因子得点 (1)
- 図 3-5 前後列・左右列に投影した性格因子得点 (2)
- 図 3-6 前後列・左右列に投影した不安定性 (D, C, I, N, O, Co) と積極性 (Ag, G, R, T, A, S) の平均値
- 図 3-7 前後列・左右列に投影した Y-G プロフィール系統値
- 図 3-8 第 2 前後列 (○—○)、第 4 前後列 (●—●)、第 6 前後列 (●—●) のプロフィール
- 図 3-9 第 1 前後列 (○—○) と第 7 前後列 (●—●) のプロフィール
- 図 3-10 第 1 左右列 (○—○)、第 4 左右列 (●—●)、第 7 左右列 (●—●) のプロフィール
- 表 3-3 性格類型典型・準典型者の座席位置 (前後列・左右列に投影した人数)
- 表 3-4 希望位置と忌避位置の相関表
- 図 3-11 座席区画番号
- 図 3-12 前後列・左右列に投影した不安得点
- 表 3-5 高不安 (H) 群と低不安 (L) 群の各座席位置指標の平均値および t 検定の結果
- 図 3-13 前後列と左右列に投影した幼教興味得点
- 図 3-14 前後列と左右列に投影した家政興味得点
- 図 3-15 4 種の区域と群構成
- 表 3-6 各群における対人関係価値尺度の平均得点 (T 値変換) および群間の差の t 検定結果
- 表 3-7 1 回当りの移動量
- 表 3-8 座席位置と移動量の中の相関係数
- 表 3-9 小移動群と大移動群の平均因子得点とその差の t 検定 (片側) の結果
- 図 3-16 座席位置と P 得点
- 表 3-10 着席時間と座席移動量 (平均 P 得点と t 検定)
- 表 3-11 着席時間と性格特性 (平均因子得点と t 検定)
- 第 4 章 座席位置への好悪感情
- 図 4-1 座席区画番号による座席位置の表示および各区画への通常位置選択者数
- 表 4-1 選択理由項目への反応 (選択者数: 人)
- 表 4-2 座席選択理由の因子分析 (バリマックス回転後の結果, N=161)
- 表 4-3 座席選択理由得点と座席行動指標の間の相関係数と有意性検定の結果
- 図 4-2 第 I 因子 (受講積極性) 4 項目の座席区画ごとの平均得点
- 図 4-3 第 II 因子 (快適環境優先性) 4 項目の座席区画毎の平均得点

- 図 4-4 第Ⅲ因子（受講不熱心・友人関係優先性）4 項目の座席区画毎の平均得点
- 図 4-5 3 因子による座席位置の区分
- 図 4-6 各座席区画への通常位置および忌避位置（カッコ内）の選択者数
- 図 4-7 通常位置（U, 3U）と忌避位置（A, 3A）の選択分布  
（U と A は代表位置、3U と 3A は三選択位置）
- 表 4-4 座席忌避理由項目への反応（選択者数：人）
- 表 4-5 座席忌避理由の因子分析（バリマックス回転後の結果、N=159）
- 表 4-6 忌避理由得点と忌避位置指標の間の相関係数（N=159）
- 図 4-8 各忌避位置における因子毎の忌避理由得点  
（各因子上位 4 項目の平均値。カッコ内は全平均値に対する比）
- 図 4-9 各忌避位置における因子毎の最適忌避理由項目選択者数  
（カッコ内は、3 因子間の比率について全体での比率との形で表現したもの）
- 表 4-7 忌避位置と通常位置の間の相関係数（N=159）
- 図 4-10 各忌避位置選択者の三通常位置選択分布
- 図 4-11 3 因子による忌避位置の区分  
（若干の広がりを用意した模式図）
- 第 5 章 教室空間の潜在的なゾーン構造
- 図 5-1 座席位置の好みテストの用紙（数字は座席位置コードを示す）
- 図 5-2 各座席位置への好みスコアの平均値
- 表 5-1 好みスコアについての因子分析の結果および各座席位置の好みスコア平均値
- 図 5-3 因子分析の結果見いだされた教室空間の 4 ゾーン構造
- 表 5-2 各群のゾーン好みスコア（ZPS）の平均値と SD
- 図 5-4 各群のゾーン好みスコア
- 第 6 章 個人空間の表出としての座席行動
- 図 6-1 教室の座席位置コードと 4 つのゾーン
- 図 6-2 対人距離テスト用紙（例、人物 1）
- 表 6-1 3 人物に対する各群の対人距離スコア（IPD） 単位 mm
- 図 6-3 人物 1（見知らぬ 50 歳位の男性）に対する各群の対人距離スコア（IPD）
- 第 7 章 態度表出としての座席行動
- 図 7-1 着席位置選択の過程にかかわる社会的態度要因（概念図）
- 図 7-2 教室の見取り図および 4 つの座席位置ゾーンの位置関係
- 表 7-1 各ゾーンの選択者数（%）
- 表 7-2 各群のゾーン指向性得点（選択者数×重みづけ／人数）
- 表 7-3 EPPS 項目の各群の平均値および群間の差の検定結果
- 表 7-4 各群の友人および群間差の検定結果
- 表 7-5 各場面の座席ゾーンの着席希望人数（%）、および各群の割合を期待値にしたと

きの各場合の割合の有意性検定の結果

表 7-6 各場合の座席移動の傾向性（数字は、一番希望ゾーンとの間の相殺後の人数を示す。+は→の方向への移動、-は←とは逆方向への移動を示す。）

図 7-3 座席移動の傾向における 2つのパターン

表 7-7 各場面における各群の本来的座席位置への固執率（%）（一番希望ゾーンに留まっている人数の比率）

図 7-4 各ゾーンにおける教師への積極性（D）と授業への積極性（A）の関係（+高い、<sup>0</sup>中程度、-低いを示す）

## 第 8 章 教室外の座席行動

図 8-1 会議室の座席配置（略図）座席位置（1～16）と区画（I～IV）

表 8-1 各座席位置への指向性得点と両場面の差の検定（N=179）

図 8-2 会議室の座席配置。（座席番号 1～16）と区画区分

表 8-2 各座席位置に各人物がふさわしいと選択された割合（%）（全体 N=177）

図 8-3 各座席位置の最頻被選択人物（P1-P16）、そのランク（R1-R6）、選択された割合（%）

表 8-3 各座席位置のランク得点の比較

図 8-4 食卓の形状の分類と座席位置番号

表 8-4 家族成員の各座席への着席比率および平均比率との差の検定結果（東西矩形）

表 8-5 家族成員の各座席への着席比率および平均比率との差の検定結果（南北矩形）

表 8-6 家族成員の各座席への着席比率および平均比率との差の検定結果（矩形全体）

表 8-7 父の各着席位置における母の各座席の着席比率（縦=父、横=母）および平均比率との差の検定（矩形全体）

表 8-8 父の各着席位置における私の各座席の着席比率（縦=父、横=私）および平均比率との差の検定（矩形全体）

表 8-9 母の各着席位置における私の各座席の着席比率（縦=母、横=私）および平均比率との差の検定（矩形全体）

表 8-10 食卓における家族の着席位置の決定度

表 8-11 伝統的価値・習慣についての評定平均値および他の項目との相関係数

表 8-12 伝統的価値・習慣と家族構成との関係

表 8-13 伝統的価値・習慣と家族の所在地との関係

## 第 9 章 本研究の成果とその応用

図 9-1 各ゾーン着席者と教師との間の距離と角度（視線方向）の関係

図 9-2 各ゾーンの着席が示唆する教師への態度

図 9-3 教室内座席行動の生起過程

図 9-4 集会室における 4つの座席ゾーンと権力者（リーダー）に対する追従者（フォロワー）の態度の分類



図 9-5 会議室の座席ゾーン (北川, 1994b より)

第 10 章 座席行動の研究分野とその可能性

図 10-1 座席行動の規定要因と生起過程

